

## 第3章 学習を支援するアクション・アイテム

### - 実施計画に向けて -

今日の社会は、国際化、高度情報化が急激に進展し、地球規模の要因が生活・文化・経済・自然環境に大きな影響を与えています。また、ライフスタイルの多様化・個性化が進んでおり、少子・高齢化とあいまって生涯の各ステージに即した学習や文化・スポーツ活動を行いたいというニーズは、広範で高度なものとなっています。

第3章「学習を支援するアクション・アイテム」は、策定委員会より「施策への提案」として答申いただいたもので、『学びの憲章』・『学びの基本理念と教育の重点』の趣旨をもとに、町民一人ひとりが真の豊かさを実感し、真に自己実現が図れるよう、学習・教育環境を整えていくための具体的な取り組みが示されています。教育委員会では、これらのアクション・アイテムの中から、社会的背景や現実的な教育的ニーズを勘案して年度ごとに実施計画を立て、順次推進して参ります。



一色小学校の風力・太陽光発電装置



葉山小学校のビオトープ

### “ 尊敬される親 ” へのアクション

#### 【アイテム 1】親子のふれあい

- \* 家庭での親と子の共通話題が広がるように、幼稚園・保育園・学校・地域団体が協力して共同行事を行う。運動会の共同開催などが考えられる。

#### 【アイテム 2】親の学ぶ姿

- \* 学校に大人の学ぶスペースを用意し、自主運営による学習を行う。

#### 【アイテム 3】地域レクリエーション

- \* 星をみる会 葉山の食を味わう会 といった家族単位で参加できるレクリエーションを行い、家族の絆を深める。また、若い世代の親を結びつけることも期待できる。

### 子育てを支援するアクション

#### 【アイテム 1】保護者教育

- \* 母親・父親学びの義務教育 として、基本的な生活習慣・しつけ・食育・マナー・規範意識など、家庭教育のあり方についての講演会等を通して行う。これにより、子どもの成長とともに親としてのあり方を学び直すことができる。

#### 【アイテム 2】情報の環流

- \* 子育て情報や相談機関等、主に子育て中の保護者が必要とするホームページの作成と運営を町の管理下で行う。遊びの提案や子育て体験談等、温かみのあるホームページを目指す。
- \* 豊かな子育て経験をもつ町民と行政が共同して『葉山町子育て便利手帳』を作成し、新生児の保護者に配布する。

#### 【アイテム 3】育児ネットワーク

- \* 子育て支援センターを設立し、育児教育・育児相談・発達相談や参加型育児サークルの支援を行う。
- \* 児童館・保育園・幼稚園の指導者を対象にしたカウンセリング研修を行う。

### 『輝くひとみ』を育てるアクション

#### 【アイテム 1】どろんこ体験

\* 遊具のない土・風・水・陽・草や虫だけの広場で、冷たい、熱い、どろどろなどの感触を味わい、創造性や情緒を豊かにし、遊びを通して体力が身につくような街中空間をつくる。できれば、整地されていない里山のような斜面や雑木林もあると良い。(例：どろどろ沼、はだしの原っぱ、水遊びのできる小川、木のぼり広場、木の上の家、冒険の森、葉山の昔話にちなんだアスレチック、小動物とふれあえる村)

#### 【アイテム 2】海岸

\* 芝崎ナチュラルリザーブでの定期的な親子磯遊びを行う。

#### 【アイテム 3】ものづくり

\* 公民館教室等に 幼児教室 を取り入れる。

### 『たくましさ』を育てるアクション

#### 【アイテム 1】発表経験

\* 絵画・音楽・演劇・踊り・作文等の合同発表を、町内行事や小中学校の校舎内にコーナーを設けるなどして行う。また、広報紙やホームページを活用して募集・掲載する。

#### 【アイテム 2】野外活動

\* 海岸や南郷上ノ山公園などを利用した保育園や幼稚園の野外活動を援助する。それにより、集団行動規律を習得させる。

#### 【アイテム 3】集団認知

\* 入学前に学校見学や地域交流会を行い、大集団への適応力を高める。

### おとなのリンク・アクション

#### 【アイテム 1】合同研修会・連絡会

\* 幼稚園・保育園・児童館・小中学校の先生や指導者が、合同研修会や連絡会を定期的に行う。これにより相互の教育方針や教育課題について共通理解が図れる。

#### 【アイテム 2】地域カウンセラー

\* 各児童館のエリアに5名程度の子育てカウンセラー(ボランティア相談員)を設置し、育児相談やグループ活動を行う。保護者に身近な相談場所が確保できる。

### 確かな学力を育てるアクション

#### 【アイテム 1】学力の質

- \* 教えるべきことは躊躇せず確実に教え、常に“不易と流行”のバランスのとれた学習活動とし、子どもたちの知的好奇心を育てる。

#### 【アイテム 2】弾力的な学級編制

- \* 少人数指導・少人数学級・チームティーチングなど、学習の目的や習熟の程度に応じた集団規模での教育指導ができるように、弾力的な学級編制・学習集団編成を行う。そのためには、町費教員の採用も含めた担当教員の確保や、教室の確保・整備が必要となる。

#### 【アイテム 3】適正な学校規模

- \* きめ細やかな指導が行える教員数の確保や、子どもたちが好ましい競争意識をもてるように、適正な学校規模にするよう努める。

#### 【アイテム 4】『自らの力』測定テスト・各種検定試験の活用

- \* 学習スキルの達成度を一人ひとりが自覚できるように、教員で構成する葉山町教育研究会が作成したテストを行う。
- \* 漢字検定・英語検定・珠算検定・パソコン技能検定などを民間力を活用して行う。

### 考える力を高めるアクション

#### 【アイテム 1】遊びコンテスト・自由研究コンテスト・科学コンテスト

- \* トライ・アンド・エラーを繰り返しながら謎解きをすることで知的好奇心を高めるため、町内規模の各種コンテストを行う。

#### 【アイテム 2】地域密着型総合学習・葉山まなび・フィールドワーク

- \* 学校支援ボランティアやNPOの協力を得て、地域事象をテーマとする総合学習を行う。

#### 【アイテム 3】学校図書館・読書活動

- \* 町内6校の学校図書館を自由学習の場にする。例えば、中学校では放課後や長期休業期間の学習室として、また小学校では休み時間や放課後の読みきかせ活動・学区内図書館として、活用する。そのためには、図書司書等の学習支援者や管理体制の整備が必要となる。

#### 【アイテム 4】学習スパン

- \* 子どもたち一人ひとりの問題解決能力を高める総合学習には長い期間を要するため、学習スパンに配慮したカリキュラムにする。

## 子どもたちの学ぶ喜びと期待に応える教育指導へのアクション

### 【アイテム 1】教育研究・研修

\* 『わかる授業・楽しい授業』を目指した研究・研修を充実するため、葉山町教育研究会や教育研究所の充実を図る。

### 【アイテム 2】わかりやすい学校評価

\* 地域から信頼される学校を目指し、地域と共同で教育成果の検証を行う。

### 【アイテム 3】教育情報センター

\* 教育指導法や学習に関する資料の収集と提供を広域的な連携で行う。また、学校教育ボランティアの管理をする。

### 【アイテム 4】道具

\* 学校の教育用備品を計画的に充実する。

### 【アイテム 5】生活空間

\* 子どもたちにとって居心地のよい学校であるために、生活環境に配慮した学校にする。

## 心の問題を解決するアクション

### 【アイテム 1】情操

\* 芸術鑑賞により豊かな感性を育む。また、若手芸術家の地域活動の場を提供し、交流を深める。

### 【アイテム 2】相談窓口・スクールカウンセラー

\* 子どもたちの悩みを受けとめ、その解決を支援する教育相談システムを充実する。また、教育相談員の家庭巡回を行い、引きこもりの解決に努める。

### 【アイテム 3】幼・小・中学校教員の交換授業

\* 定期的な交換授業を行い、子どもたちの現状把握や情報交換によって成長過程を長い目で見るができることから、子どもたちへの幅広い対応が期待できる。

### 【アイテム 4】青少年のフリースペース

\* 放課後や休日の芸術・スポーツの青少年活動拠点をつくる。

### 【アイテム 5】短期ふりかえりの場

\* 集団生活の規範を受け入れることができない子どもの一時的な教育の場をつくり、規範意識や心の成長への細やかな支援を行う。

### 生きる力をつけるアクション

#### 【アイテム 1】個別指導計画

\* 一人ひとりの生涯を見通し、各人の社会的な課題を克服できる基礎能力の育成を目指した最適な教育が行えるように、保護者と教育機関が連携して、きめ細やかな教育内容と指導計画をもつ。また、そのためのアセスメント(評価)を確実に行う。

#### 【アイテム 2】ノーマライゼーション (注)

\* 社会活動に参加し、様々な刺激を受けることは、障害の有無にかかわらず大切なことである。このことを地域全体が意識できるような啓発活動を進める。

(注) ノーマライゼーションとは、障害のある者も障害のない者も、同じように社会の一員として社会活動に参加し、自立して生活することのできる社会を目指すという理念。

### ハンディキャップ理解のアクション

#### 【アイテム 1】統合教育(インテグレーション) (注)

\* 教育機関は、早期からの交流教育を行う。それにより、共に生きている実感を養うことができる。

(注) インテグレーションとは、障害児を障害があるというだけで養護学校や特別支援学級に委ねるのではなく、個々の子どもの教育的ニーズによっては、できるだけ通常の学校や学級で障害のない子どもたちと共に過ごし、共に教育を受けるようにすべきであるという考え方。

#### 【アイテム 2】体験学習

\* アイマスク・車イス・サイレント体験や点字・手話学習を体系的に行う。

#### 【アイテム 3】公開講座

\* 教育・福祉・医療等の関係機関が連携し、町民対象の講座を行う。

### つながるアクション、つなげるアクション

#### 【アイテム 1】地域ボランティア・支援ネットワーク

\* 一人ひとりの自立を支援する地域ボランティアの養成講座を行う。

#### 【アイテム 2】療育支援・発達相談センター

\* 一人ひとりの教育ニーズを的確に把握し、適切な教育的支援をコーディネートするための機関を新設する。

### こども葉っぱいボディ アクション

【アイテム 1】いい汗

\*子どもたちの外遊び環境を整える。また、『子どもスポーツポイントカード（認定証）』を作成し、例えば、外遊び・逆上がり・自転車乗り・水泳・マラソンなどを行ったら保護者や地域の人がポイントを記入し、その数により教育委員会などが[級]の認定を行う。

【アイテム 2】『食育』

\*学校栄養士などが保護者に食教育を行う。

【アイテム 3】スペシャリスト

\*医師・保健士・養護教諭などの専門家が保健指導を行う。

### 生涯スポーツへのアクション

【アイテム 1】地域クラブ

\*地域クラブを主にした活動を行う。そのためには中学校部活動との連携を図る必要がある。

【アイテム 2】スポーツセンター

\*いつでも・だれでも・だれとでも利用できるスポーツ施設をつくる。例えば、南郷上ノ山公園の総合スポーツ施設化が考えられるが、温水プールについては近隣自治体との連携も考慮すべきである。

【アイテム 3】スポーツ・ロード

\*海岸や公園、“葉山の散歩道”を活用し、ウォーキング・ジョギングやサイクリングのコースに整備する。

### 安全管理能力向上へのアクション

【アイテム 1】救急法

\*小・中学生の救急法講習を必修にする。又、成人教育として行う。

【アイテム 2】防災・防犯・護身術

\*地域防災訓練を学校・地域（町内会・自治会）・消防署・町役場が共同で行う。

\*防犯訓練を幼稚園・保育園・学校と警察が連携して行う。また、小学校高学年以上を対象に、地域団体の協力を得て、護身術講習を行う。

【アイテム 3】水難事故防止

\*子どもたちを早期に泳げるようにする。

### 「自分探し」へのアクション

【アイテム 1】豊富な学習情報

\* 町内外を問わず行われている学習活動についての情報を提供する。ホームページや特定の場所での掲示が有効となる。

【アイテム 2】職能教育

\* 例えば、放送大学の集団利用ができる場をつくり、資格取得に向けた学習の機会を提供する。

【アイテム 3】公開講座

\* しおさい博物館や県立近代美術館の教育機能を充実する。

### 『学びの環流』アクション

【アイテム 1】発表の場

\* 文化交流を図るため、文化団体等のフリースペースを教育施設に確保する。

【アイテム 2】「その道の達人」

\* 文化活動コーディネーターを中心に、自主的な講習会を行う。

### 「いつでも、どこでも、どこまでも」学ぶためのアクション

【アイテム 1】生涯学習センター

\* 生涯学習の拠点となる施設を設置し、このセンターを中心にして各種プロジェクトを行う。

【アイテム 2】町民大学

\* 『葉山町民大学』として、NPO法人化を図る。



### 子どもたちの 群れ遊び アクション

#### 【アイテム 1】放課後のフリースペース・土曜クラブ

- \* 小学校に子どもが安全に遊べる居場所をつくる。そして、異年齢の子どもとふれあうことにより、コミュニケーション能力を育成する。そのために、民間ボランティアの指導員（中学生以上）を募り、運営する。

#### 【アイテム 2】学びのポイントラリー

- \* 夏季休暇などを利用した地域での体験学習を行い、体験ごとのポイントを獲得する。それにより、グループで自主的な地域に出での社会勉強ができる。そのためには、受け入れ先のリストづくり等が必要となる。

### 『たくましさ』向上アクション

#### 【アイテム 1】共同生活

- \* 町外の野外活動センターなどを利用した夏休みの宿泊活動を行う。
- \* 学校を利用したスポーツ合宿を行う。

#### 【アイテム 2】ものづくり

- \* 子どもたちに“木を切り、くぎを打つ・土をこね、器などをつくる・稲や野菜をつくる・漁具をつくり、魚を釣る”などの体験をさせる。

#### 【アイテム 3】発表経験

- \* 子どもたちが、自分の考えや一生懸命努力したことを発表する機会を増やす。

#### 【アイテム 4】子ども議会

- \* 夏休みなどを利用して、小学校4年生以上の「子ども議会」を行い、政治への関心を高める。

### 『はりきる先輩』アクション

【アイテム 1】里帰り活動

\* 小学校1年生が幼稚園・保育園を訪問する。

【アイテム 2】一日先生

\* 中学生が、得意な教科等の「一日先生」になり、小学校で教える。

【アイテム 3】学生チューター制度

\* 教員志望の大学生を学習ボランティアとして学校に受け入れる。

### 友達の輪をひろげるアクション

【アイテム 1】短期留学

\* 姉妹都市の草津町に、小中学生が二週間程度の短期留学をする。

【アイテム 2】合同活動

\* 町内小中学校の音楽会やスポーツ大会を行う。また、中学校の部活動合同練習を行う。

### “6つは、ひとつ”へのアクション

【アイテム 1】相互利用

\* 各学校に、郷土資料館・野外観察施設・環境教育施設などの特色ある機能をもたせ、相互利用をする。そのためには、交通手段の確保が必要となる。

### 心をつむぐアクション

#### 【アイテム 1】町をあげてのイベント

- \* 音楽祭・文化祭・芸術祭・スポーツ大会を充実する。
- \* 町民が総力を挙げてギネスブックに挑戦する。

#### 【アイテム 2】同伴登校・一日プラン

- \* 小学生と地域のお年寄りが、月に一度、同伴登校をする。
- \* 小学生が地域のお年寄りの家に訪問して、一緒に一日を過ごす。

#### 【アイテム 3】中学生の保育体験

- \* 中学生は、乳幼児に接する機会が極端に減る。そこで、保育園などでの体験保育を行い、乳幼児の喜ぶ姿や泣くことで会話をしていることなどを学び、将来の子育てを肯定的に捉えられるようになる。

### 知恵・経験をつなぐアクション

#### 【アイテム 1】学校の花壇

- \* いつも美しい花壇は、心を和ませる。そこで地域に住む花づくり名人の知恵をもらい、地域の協力を得て、子どもたちとともに『学校の花壇』を『地域の花壇』にする。

#### 【アイテム 2】語り部

- \* 葉山にある先人の知恵や葉山の昔を語り継ぐためにも、子どもたちが聞ける機会をつくる。ことに戦争体験については、平和教育に生かすためにも記録する必要がある。

#### 【アイテム 3】ジュニアリーダー

- \* 異年齢集団での活動を子どもたちが主体的に進めるためのジュニアリーダーを育成する。

### 国際人を育てるアクション

#### 【アイテム 1】異文化との交流教室

- \* 葉山に居住する各国の人にお国料理を習い、様々な国の食文化にふれる。
- \* 世界の子どもたちと絵文字で交流する。

#### 【アイテム 2】教育連携

- \* ホールドファストベイ市（国際交流姉妹都市）の学校と、作品の交換やメールでの学校紹介などといった子ども交流や、教員の派遣交流を行う。

#### 【アイテム 3】人権・マナー

- \* 早期からの一貫した人権教育プログラムをつくり、実施する。
- \* 小学校高学年以上のひとつの学年で『マナー教室』を行う。例えば、国際村にある研修施設のレストランなどでの会食も考えられる。

### 言語力を育てるアクション

#### 【アイテム 1】日本語教育

- \* 文を読み解き、文を作成する能力を育成する。また、美しい日本語に多くふれ、日本人としての情緒を育む。

#### 【アイテム 2】国際共通語（英語）

- \* 幼児期からの英語教育プログラムをつくり、それに基づく小学校の英語活動をする。また、中学校卒業段階での、例えばTOEFL（注）400点取得を目標にした英語教育を行う。

（注）TOEFLとは、Test of English as a Foreign Language(英語学力検定テスト)の略

#### 【アイテム 3】日常会話から学ぶ

- \* 地域の外国人家庭に地域案内や草刈りなどのボランティアをし、英会話の実践力をつける。

基本理念 自然のあらゆることに思いを馳せ、  
感謝の念を持って行動できる人間をめざして

### 身近な視点から環境を考える力をつけよう

#### “ふれて、発見！”アクション

##### 【アイテム 1】

- \* 海・山に学ぶ体験学習や観察会、ビーチコーミングを実施する。  
(動植物環境調査隊、里山守るんです隊、海洋探検隊)
- \* 自然豊かな葉山の海や山を舞台にした体験学習を行う。直に自然にふれあうことの中で豊かな感性が育まれる。

##### 【アイテム 2】共同研究

- \* 地域の自然環境(森戸川・下山川など)を小学生・中学生・高校生が一緒になって研究する。

##### 【アイテム 3】観察ポイント

- \* 葉山の観察スポットを紹介する。(芝崎ナチュラルリザーブ・下山川・森戸川・三ヶ岡・長柄桜山古墳・千枚田など)
- \* 海・川での野鳥観察や生物観察などのための双眼鏡・顕微鏡・集音器の貸出を行う。

##### 【アイテム 4】学校ビオトープ

- \* 学校ビオトープを活用する。

#### フィールド・ワークを支援するアクション

##### 【アイテム 1】「地域学び」コーディネーター

- \* 学校支援ボランティアやNPOの協力を得て、地域事象をテーマとする総合学習を行う。そのために、字(あざ)単位のコーディネーター登録制度をつくる。

##### 【アイテム 2】学習支援

- \* 交通手段の確保、様々なボランティアの育成、機材の活用などを考え、整備していく。

**基本理念** 自然のあらゆることに思いを馳せ、  
感謝の念を持って行動できる人間をめざして

## 自然環境を汚さない行動力をつけよう

### クリーン・アクション

#### 【アイテム 1】清掃活動

\* 通学路や地域清掃活動、森戸川・下山川の清掃、ビーチクリーンなど親子で参加して清掃活動をする。

#### 【アイテム 2】クリーンエネルギー

\* エネルギー問題への取り組みを学校の授業として積極的に行う。  
\* 賞を設けるなどして、クリーンエネルギーに関する研究を、奨励・支援する。

### 自然環境保護・再生へのアクション

#### 【アイテム 1】減量・リサイクル

\* 小学校の早期に生ゴミから肥料をつくる方法を習得する。また、学校と地域が協力してリサイクル活動を行う。

#### 【アイテム 2】環境保護プログラム

\* 学校での環境教育をもとに、家庭教育としてのプログラムを作成する。  
これにより、家族が環境に配慮した行動をとれるようになる。

#### 【アイテム 3】環境ISOの取得

[ International Organization for Standardization 国際標準化機構 ]

\* 町立学校はISOを取得する。

#### 【アイテム 4】自然再生活動

\* 葉山メダカを学校と地域が協力して繁殖させる。  
\* 里山保全に町民全体で取り組む。  
\* モンゴル砂漠再生活動など、国際環境活動に代表者を派遣する。

基本理念 自然のあらゆることに思いを馳せ、  
感謝の念を持って行動できる人間をめざして

地球・生命を愛する心を伝えよう

### 『知る・感動』へのアクション

#### 【アイテム 1】「生と性」の教育プログラム

\* 『自らにつながる命と、自らがつなぐ命』のすばらしさを子どもたちが実感できる教育プログラムを、幼・小・中学校教育関係者が共同でつくる。その際、中学時代に生物学上の男女の体の特徴を学ぶのと並行して、赤ちゃんが誕生するまでの妊婦さんの思いなどを見聞きし、『生命』の大切さを実感することは、男女が補いあい助けあって、共に生きる心を育てる有効な方法となる。

#### 【アイテム 2】いのちの詩

\* 感動したことを表現した「詩」を広く町民から募集し、入賞作品を広報紙や町のホームページ、文化祭などで披露する。

#### 【アイテム 3】写真・ビデオ

\* 感動したことを表現した「写真・ビデオ」を広く町民から募集し、入賞作品を広報紙や町のホームページ、文化祭などで披露する。



南郷中学校文化祭



海に学ぶ集い

家庭から地域（葉山）へ、そして世界へ

地域・我が国を知るためのアクション

【アイテム 1】伝統文化

- \* 他国の人に郷土を紹介する機会を設ける。学校のホームページを活用したり、外国の学校との交流を行う。
- \* 地域文化ロードの整備・活用をし、葉山の歴史的価値にふれる。
- \* 葉山の伝統文化（民話・風習・伝承芸能・行事・祭りなど）を掘りおこし、保存する。また、『葉山こども風土記』を作成する。

【アイテム 2】葉山の人材（その道の達人）

- \* 一人ひとりが、地域についての『その道の達人』になって、楽しく学ばう。

【アイテム 3】葉山の愛唱歌・地域カルタ

- \* 葉山の愛唱歌や地域カルタをつくり、発表会やカルタ大会などを行う。

世界を学ぶためのアクション

【アイテム 1】海外での生活経験

- \* 各国で暮らしたことがある人々から、その国の民俗・習慣（タブーや礼儀も含めて）・宗教などの話を聞き、その国の理解を深める。また、様々な国の地図や地球儀を使って、各国の様子や特色と日本からのアクセス方法を学ぶ。

【アイテム 2】討論を通して得る自分の考え

- \* 「今後、日本（葉山）として、その国のためにどうしたら役立つことができるか」をテーマに、ディベート大会やパネルディスカッションを行う。

【アイテム 3】外国文化講座

- \* 国際セミナーなどを行い、外国の文化について学ぶ。



社会変化に対応する力を育てよう

情報に適応するためのアクション

【アイテム 1】IT・情報選択能力

\* 1人に一台のパソコンを使用した授業を行い、高度情報通信社会に対応できる情報技術を習得させる。それとともに、子どもたちの情報選択能力を高める。

【アイテム 2】セルフ・ガード

\* 情報通信はコミュニケーション手段のひとつであり、相手のすべてを理解できるものではないことを子どもたちに教え、情報通信を使ったネット犯罪に巻き込まれない力をつける。特に、勧誘・薬物の断り方を教える。

【アイテム 3】情報モラル

\* インターネットや携帯電話の正しい活用の仕方を子どもたちに理解させ、他人を誹謗・中傷するような書き込みやメールのやりとりなどがないように、情報モラルを体得させる。

自己の適性を知るためのアクション

【アイテム 1】職場体験学習

\* 子どもたちが、社会の一員として働くことの意義や喜びを知ることとはとても大切なことである。ことに中学生年代では、社会を体感する機会をもつことは、礼儀・マナーも含めて自己をふりかえるきっかけとしても有意義である。そこで、中学校1年生は職場インタビューを通して様々な職業を知り、2年生は自分の興味・関心のある職場で実際に「働くことはどういうことか」を体験する進路学習を、地域の協力を得て行う。

【アイテム 2】ゲスト・ティーチャー

\* 学校に各界で活躍する著名人を招き、経験談などを交えての講義を行う。また、地域の「その道の達人」の努力がうかがえる話をしてもらう。

### エキスパート・アクション

#### 【アイテム 1】マイスター校

\* 町立の伝統技術・実用的技術の専門学校を新設し、既存の中学校や高校と教育連携を図る。

#### 【アイテム 2】特技志向型特別学習

\* 小・中学校に、芸術文化・科学・スポーツ・情報技術・国際語の特別学習コースを設け、早期からの一貫教育とする。

#### 【アイテム 3】学びのパスポート

\* 小・中・高・大学や研究機関などの連携により、授業や講座を受けることができるパスポート制度をつくる。

### “いっぽ、先”へのアクション

#### 【アイテム 1】教室の形態

\* 中学校の普通教室が教科室となる学習環境の整備をめざす。

#### 【アイテム 2】ITコミュニケーション

\* 学校と家庭との連絡手段として、情報技術（IT）を活用する。これにより、随時の、きめ細やかな連携が図れる。

#### 【アイテム 3】地域とともに進める学校運営

\* 地域の声を取り入れて、校長の思いを込めた学校づくりを研究する。  
\* 学区自由化の研究をする。